

10. 21映画「ひろしま」上映と講演のお知らせ

被爆後8年が経過した広島で、9万人の広島市民がエキストラ出演などで協力して作られた映画「ひろしま」。被爆のシーンがあまりにもリアルだったので、大手の映画配給会社がアメリカ政府との軋轢を恐れて興行にかけなかったために多くの人に見ることがないままに埋もれてしまった映画です。山田五十鈴、月丘夢路といった当時のトップ女優たちが出演しているにもかかわらずです。約50年間、倉庫で眠っていたこの映画は、助監督としてこの映画の製作に参加した人を父に持つ映画人の手によって生き返りました。3.11以後の社会において、日本人と核の関係の原点に光を当てるためです。広島と長崎で被爆を体験した日本が、再びあってはならない放射能被爆災害を経験してしまった今だからこそ、この「ひろしま」を見る必要があるのではないかと思います。



映画「ひろしま」とともに、講演会を開催します。

講師紹介

伴 英幸さん(テーマ・福島原発事故の現在とこれから)



非営利特定活動法人原子力資料情報室共同代表。1951年三重県生まれ。1975年稲田大学卒業。活協同組合専従を経て、1989年脱原発法制定運動の事務局スタッフ。1990年原子力資スタッフとなる。1995年同事務局長。1998年同共同代表。2004年 政府の内閣府原子力安全委員会の諮問会議である原子力開発利用長期計画策定会議の委員として脱原発の立場から意見を主張。共著書は「原子力市民年鑑」(七つ森書館)、「原子力政策大綱批判—策定会議の現場からほか」(七つ森書館)、原子力資料情報室パンフレットに執筆。

大賀あや子さん(テーマ・福島県民からの声)

小金井市出身。チェルノブイリ原発事故後、東京電力と共に脱原発をめざす会などに参加。95年より福島県大熊町在住。自給農や脱原発福島ネットワークの活動に取り組んできた。3/11から5ヶ所目の避難先にて、子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク、福島原発告訴団などで奔走中。



肥田舜太郎さん(ビデオメッセージ)



1945年の被爆当時医師として広島市で勤務していた95歳の肥田舜太郎さんには、この映画について講演された映像を編集して見ていただくことにいたします。長年にわたって被爆者の診察を続けてきた肥田医師は、内部被ばくの影響について研究されてきた人です。

日時 2012年10月21日(日)
場所 調布グリーンホール大ホール

開場 10:00

① 10:30~12:10 映画「ひろしま」上映
12:10~12:30 肥田舜太郎ビデオメッセージ

② 13:30~13:50 肥田舜太郎ビデオメッセージ
13:50~15:30 映画「ひろしま」上映

講演 15:30~16:30 (大賀あやこさん、伴 英幸さん)

③ 17:00~18:40 映画「ひろしま」上映
18:40~19:00 肥田舜太郎ビデオメッセージ

*入れ替え無しです。
どの回で映画をご覧になっても講演にご参加いただけます。

「ひろしま」調布上映
実行委員会
042-487-1714(みさと屋)
原水爆禁止調布市民会議

<http://chofu-lab.org/hiroshima/>
(チケット予約受付中)
グリーンホール、たづくり
にても販売しています。